



せつ 石けんはどうして「石」の字を使うの

さいしょ はい 最初に入ってきたことばはシャボン

せつ せつけん あづちももやまじだい じん じん
石けん(石鹸)は、安土桃山時代に、ポルトガル人(またはスペイン人)によって、日本にもたらされました。そのころは、ポルトガル語のサボンから、シャボンとよばれました。えどじだい なか しゃぼん かんじ
江戸時代の中ごろには、シャボンに、「沙盆」という漢字が、あてられました。

ごやく う 誤訳から生まれた石けん

えどじだい はじ ちゅうごく ほんぞうがく やくぶつ がくもん ちしき あつ ほんぞうこうもく
江戸時代の初めごろ、中国から、本草学(薬物についての学問)の知識を集めた『本草綱目』という書物が、もたらされました。その本にのっている「石鹸」ということばは、シャボンとはちがう意味であったようですが、日本の学者は、これはシャボンを中国語に訳したものである、と誤解して、シャボンの日本語名を、「石鹸」としました。ですから、石けんの石という字は、ちゅうごくご やく つか
中国語をまちがって訳したために、使われるようになったのです。

(監修・田代 脩)

